科目名	卒業研究				授業の種類	演習	講師名		
授業回数	45回	時間数	90時間 (3単位)	配当学年・時期	作業療法士科4年			必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
<p>研究は実践のための科学的基盤を確立する上で重要です。また、作業療法士協会による教育プログラムでも「研究法」は認定作業療法士になるための必修項目となっています。これらを踏まえ、研究の基礎的知識と技法を踏まえた上で、研究の手法を駆使し、テーマを選び書式に沿って論文としてまとめることにより、作業療法やその対象者の理解や背景を読み取ることを目的とします。</p>									
〔授業全体の内容の概要〕									
<p>基礎知識を理解し、グループにて研究過程(契機から疑問へ、目的、方法、方法の実践、集計と統計処理、発表)を経験しながら学びます。</p>									
〔講師の実務経験〕									
<p>新行橋病院、宝塚第一病院、宝塚リハビリテーション病院にて作業療法として従事</p>									
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕									
<p>作業療法関連の学会にて査読通過できるレベルが目標です。</p>									
回数	講義内容								
1	オリエンテーション 復習(研究の基礎)								
2	グループ討議 研究テーマの設定①								
3	グループ討議 研究テーマの設定②								
4	グループ討議 研究疑問の設定①								
5	グループ討議 研究疑問の設定②								
6	グループ討議 研究疑問に関する文献検索と購読①								
7	グループ討議 研究疑問に関する文献検索と購読②								
8	グループ討議 研究疑問に関する文献検索と購読③								
9	グループ討議 研究疑問に関する文献検索と購読④								
10	グループ討議 研究目的の設定①								
11	グループ討議 研究目的の設定②								
12	グループ討議 研究方法の立案①(対象・方法・集計とデータ管理・分析)								
13	グループ討議 研究方法の立案②(対象・方法・集計とデータ管理・分析)								
14	グループ討議 研究方法の立案③(対象・方法・集計とデータ管理・分析)								
15	グループ討議 研究方法の立案④(対象・方法・集計とデータ管理・分析)								
16	グループ討議 研究計画書の作成①								
17	グループ討議 研究計画書の作成②								
18	グループ討議 中間報告会①								
19	グループ討議 中間報告会②								
20	グループ討議 方法の実践								

科目名	卒業研究			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	45回	時間数	90時間 (3単位)	配当学年・時期	作業療法士科4年		必修・選択	必修
回数	講義内容							
21	グループ討議 方法の実践							
22	グループ討議 方法の実践							
23	グループ討議 方法の実践							
24	グループ討議 方法の実践							
25	グループ討議 方法の実践							
26	グループ討議 方法の実践							
27	グループ討議 方法の実践							
28	グループ討議 方法の実践							
29	グループ討議 方法の実践							
30	グループ討議 方法の実践							
31	グループ討議 方法の実践							
32	グループ討議 方法の実践							
33	グループ討議 方法の実践							
34	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
35	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
36	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
37	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
38	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
39	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
40	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
41	グループ討議 分析・論文作成・発表準備							
42	卒業研究発表							
43	卒業研究発表							
44	卒業研究発表							
45	卒業研究発表							
	定期筆記試験							

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準作業療法学 作業療法研究法	山田 孝	医学書院
医療系論文の読み方・まとめ方	対馬 栄輝	東京図書
超入門らしく使えるはじめての統計学入門	山陰 道明	メディカ出版

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

課題提出状況、発表状況にて判定する。